クーンブ、チュクン・リ、カラパタール 連続登頂へリトレッキングの記録

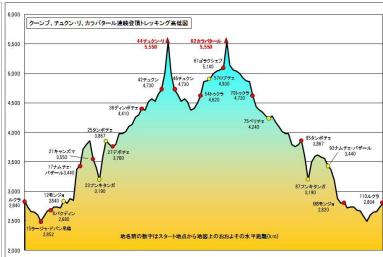
密かに心の中で燃え続ける三度目のヒマラヤはなかなか実現できず6年を経過した。ようやく景観に惚れたペリチェの谷を中心に、チュクン・リからコンマ・ラを越えてカラパタールへの一人トレッキングが実現した。まだシーズン前の春寸前という時期もあって、ロッジの食事はジャガイモ・麺類・パンケーキなど単調なメニューの繰り返しだった。一方、ピークシーズンにはトレッカーで賑わうエベレスト街道やロッジは貸し切り状態、静けさを贅沢に満喫した山旅になった。



プモ・リ (7165m)を背にカラパタール









テンジン・ヒラリー・ルクラ空港



マニ石



休憩所(バッティ)

トレッキング 1 日目

カトマンズ/Kathmandu/1400m (国内航空約 40 分)〜ルクラ /Luklha/2840m〜 パクディン/Phakding/2680m 歩行時間 3.5 時間

ルクラの滑走路は山の尾根筋を削った 400m ばかりの短いもので、山に向かっ て登り傾斜になっておりこの傾斜がプロ ペラ機着陸時のブレーキの助けになると いう。ならば離陸はその逆であろうか。ロ ッジや土産物店が立ち並ぶルクラのメイ ンストリートを抜け、いよいよトレッキン グ開始である。

今日はパクディンまで。基本的に大滝のような轟音を響かせ乳白色に混濁した流れのドゥド・コシ河の谷底に向かって下る3時間ほどの行程である。村はずれには大きなマニ石(経文石)やチョルテン(仏塔)が幾つも建てられている。

集落の人々のチベット仏教への信心深 さが窺える。

ガイド(右端)と二人のポーター

トレッキング 2 日目

パクディン/Phakdinng/2680 m ~ジョサレ/Josale/2800m~ラージ ャ・ドパン大吊橋/Larja dobhan/ 2852m~ナムチェ・バザール/ Namche Bazar/3446m

歩行時間 6 時間



-夕国立公園チェックポイント(モンジョ)

今日は終日ナムチェに向けて登りの日 である。天気は快晴であった。村はずれ のチェックポイント (検問所 入山料は トレッカー一人につき 80 米ドル位)を 抜け、ドゥド・コシに合流するイムジャ・コ ーラに掛かる大吊橋(ラージャ・ドパ ン)を渡ると、標高差 600m の急登が待 っていた。



ナムチェ・バザール

ナムチェ・バザールはシェルパ族の村 でクーンブ地方最大の拠点集落である。 エベレスト登山の起点として、また周辺の集 落との交流の場として大変賑わっている。 村落の入り口には水流で動く大きなマニ車 や、さらに大きいカン二(仏塔門/仏塔 をくり抜いて門にしたもの)があり、数多く のロッジや土産物店が建ち並んでいる。ナム チェは3方山に囲まれている。



コンデ・リ(6186m)

村落を背にして望めば、右手にコンデ・リ の岩峰、正面左よりタムセルク /Thamserku/6623m カンテガ /Kantega/6685mの大パノラマが広がる。 雄大な素晴らしい景色に急登の疲れも忘れ る。



テンジン銅像(記念館前)



アマ・ダブラム(6812m)



エベレストクーンブ山群



クムジュン村

トレッキング3日目

ナムチェバザール〜シャンボチェ /Syampoche/3720m〜クムジュン /Khumjung/3780m

歩行時間 4 時間

雲一つない晴天の下、ロッジを後にして ナムチェの峠まで登ると、エベレスト街道 の出発点である。

街道入り口から十数分歩いた所の山肌に、 テンジン(ヒラリー卿と共にエベレスト初 登頂したシェルパ族)記念館がある。 この記念館のテラスからはエベレストクーンブ 山群が一望できる。

街道右前方には壮麗なアマ・ダブラム/Ama dablam (6812m)、そして正面には世界最高峰のエベレスト/Everest(8848m)をはじめ、ローツェ/Lhotse(8501m)、ヌプツェ/Nuptse(7664m)、が眼前に見渡せる圧倒的大パノラマである。

この大自然の勇壮な峰々の景色の最深部に向 かって歩を進めて行くのである。

トレッキングの期待と若干の不安が胸をよぎる。2月半ば、標高 4000m 弱ではあるが、風が無く日差しがあればとても暖かい。 空気は乾燥しており汗は出ない。

爽快な気分で景色を堪能しながらクムジュン村に入った。

タムセルク(6608m)



エベレストとローツェ峰(クンデ峰から)



ヒラリースクール



ヒラリースクール通学児童

トレッキング 4 日目

クムジュン 高度順応と休養

今日は高度順応と休養を兼ねてクム ジュンを散策した。午前中、クンデ峰 /Khunde(4000m)にビスターリ (ゆっくり)、ビスターリ(ゆっくり) と登る。

クンデ峰からはアマ・ダブラム、タムセルク、クスム・カングル/Kusumu Kanguru(6367m)の素晴らしい眺めが広がる。

この村はずれにはエベレスト初登頂を成し遂げたエドモンド・ヒラリー卿が寄贈した病院や学校がある。たまたま通学している子供たちと出会った。ナマステと声を掛けると子供たちから返ってきた挨拶は Good Morning!!でした。

午後はアマ・ダブラムをのんびりと 眺めながら休養した。冠雪した白い山肌 のアマ・ダブラムは、日暮れとともに山 肌がほんの一瞬ピンクから薄紫へと変化 した。その妖艶な美しさに胸が動いた。



ポーター



タンボチェゴンパ(僧院)



本堂入り口



お経を縫い込む信者たち

トレッキング 5 日目

クムジュン/Khumjung/3780m 〜サナサ/Sanasa/3600m〜タンボ チェ/Tangpoche/3867m

歩行時間 6 時間

クムジュンの高所台地の平坦路を過ぎ、河原状の涸れ沢に沿って道を下ると、カラパタールに通じるエベレスト街道のサナサに出た。生活物資(60kg~70kg)を運ぶポーターが数多く行き交う。

エベレスト街道は集落を結ぶ生活道路でもある。サナサではイムジャ・コーラの 激流を受けて大きなマニ車がガタゴトと 絶えず祈りの音を轟かせていた。

イムジャ・コーラの左岸をたどり七曲の 急登に挑む。体力は尽き果て一歩足を運ぶ たびに息を切らせ、苦しみながら何とか急 登の針葉樹の樹林帯を抜け、カンテガから 延びる尾根末端の山腹に広がるタンボチェに 到着。

聳え立つ派手な装飾の見事なゴンパ(僧院) はクーンブ地方におけるチベット仏教の総本 山である。

休憩後、高度順応のため再度カンテガ尾根を 更に 200mほど登った。 高山病を防ぐにはこの作業が大切である。

夕暮れから雪となり、タンボチェの台地は一瞬にして白銀の世界となった。

村落外れのチョルテン



ディンボチェへの街道



ディンボチェの村落



アマ・ダブラム(ディンボチェから)

トレッキング 6 日目

タンボチェ/Tangpoche/3867m〜 パンボチェ/Pangpoche/3930m〜 ディンボチェ/Dingpoche/4410m 歩行時間 6 時間

タンボチェの北側から石段の道をイムジャ・ コーラに向かって下っていく。

街道筋に点在する村々のチョルテン(仏塔)に 手を合わせ、村の入り口の仏塔門(カン二)を くぐって幾つかの集落を抜ける。

登りはそれほどでもないが、既に標高 4000m を超えているので意外にきつい。 ツロ氷河のモレーン (堆積) のザレ道を登切り、イムジャ・コーラを右下に見ながら道を進むと 谷の平坦地に出た。

ディンボチェのカルカ(集落)である。

ディンボチェは広大な農地(じゃがいも畑)の 広がる集落である。今のところ体調も良く高山病 の気配もなく順調に高度順応が出来ている。

3000m を超えたあたりから高山病予防にダイアモックス 250 mg 1 錠/日を服用している。 高山病予防の準備は怠れない。



ポカルデの山腹からペリチェを望



タウツェ(6495m)



アマ・ダブラム (ディンボチェから)



ローツェ(ディンボチェから)

トレッキング7日目

ディンボチェ 高度順応と休養

今日は、高度順応と休養日。

ディンボチェの谷を形成しているポカルデ/(5806m)の尾根を空身でゆっくりと標高 5000m まで登る。

天気は晴れていたが、風が強く冷たく体感温 度は 0℃を下回っているであろうか、とても寒 い。それでもここからの眺望は素晴らしい。

アマ・ダブラムがすぐ手の届く近さに迫り、 西北側にはペリチェ谷を成すチョラ・ツェ (6640m)の異様な形の岩峰と巨大な山容の タウツェ(6495m)が聳え立つ。

この標高では草木と言える植物は殆どない。 視界にあるのは雪と岩の山稜、そして岩石と砂 利に覆われた氷河、大きく崩れた荒々しい山塊 が剥き出し、荒涼、荒漠たる地球の大地、無機 的な景色であった。

トレッキング8日目

ディンボチェ/Dingpoche/4410m ~チュクン/Chhukhyng/4730m 歩行時間 4 時間

今日はいよいよ今回のトレッキング のゴールの一つと決めていた、チュクン に向かう。

ディンボチェのカルカから少し下りに なり、ヌプチェ氷河、ローチェ氷河を源 泉とする水流が合流するイムジャ・コー ラに下り立つ。

氷河期特有のU字型の谷に流れるイム ジャ・コーラの支流の左岸を上流に向か って緩やかに登ってゆく。視野が開け平 坦な山道の両側にはクーンブ山群の勇壮 な峰々が迫る。

チュクンに到着した。ロッジは昨年建 てられたばかりと言う。とても清潔感の ある立派なロッジであった。

ロッジを出て 100m 位登ったところ のローツェ氷河のサイドモレーンに立つ と、特有のヒマラヤ襞やアマ・ダブラム、 ローツェ、ヌプツェの名峰等が織りなす 大自然の圧倒的造形美の凄さに心が震え る感動を覚えた。

この地に立てたことの果報を、今回の トレッキングに係って下さったすべての 人に感謝したい気持ちを改めて感じた。 今夜もロッジの客は私一人だ。



チュクンへの登り



チュクンロッジ



ヒマラヤ襞



夕映えのローツェ南壁

チュクン・リ頂上



カンレアム



ヌプツェ(7861m)



マカルー(8462m)

トレッキング 9 日目

チュクン/Chhukhyng/4730m〜 チュクン・リ/Chhukhyng・Ri (5559m)登頂〜チュクン 歩行時間 6 時間

イムジャ・コーラの幅 3m 位の急流に橋はなかった。水はとても冷たく流れは速い。そこで大き目の平たい石を幾つか投げ入れ、これを足場に何とか濡れずに渡りきった。

登り始めると、前方のヌプツェの岩峰に黒い山塊が見えてくる。チュクンの主峰チュクン (5833m)だ。目指すチュクン・リはその手前の岩峰になる。

2時間程度の急な登りで見晴らしの良いコルに到達した。この辺りから踏み跡が不明瞭な岩稜地帯となり、緊張が高まる中、足のつま先に神経を集中させ、バランスを取り、注意深く攀じ登る。

頂上にはルンダはためくケルンが幾つも立っていた。風は強く、立つのが怖い。頂上からはヌプツェ、ローツェ、マカルー、アイランド・ピーク、アマ・ダブラム、カンレアムなどこの頂上からでしか味わえない雄大で、素晴らしくゴウジャスな眺めにディープなヒマラヤを感じ最高な気分であった。

マカルー—/Makalu/8462m もこの頂上からしか望めない。

ハイキャンプよりチュクンロッジを望む



ハイキャンプよりアイランド・ピークを望む



ポカルデのハイキャンプ



テントサイトよりアマ・ダブラムを望む

トレッキング 10 日目

チュクン/Chhukhyng/4730m〜 ハイキャンプ/Hight Camp/5200m 歩行時間 6 時間

今日からトレッキングはハイキャンプの 氷河湖の横断とクーンブ山群 3 大峠の一つ コンマ・ラ(峠)を越える 2 日間の冒険的挑 戦である。

ハイキャンプへの行程は 5000m を超える標高。 そして季節はまだ 2 月であり、 峠の積雪やルートの凍結が懸念されていた。

しかし幸運にもトレッキングルートには 雪がなく快適な登りであった。

氷河湖のほとり、広々とした台地 (5200m 前後)に持参したテントを設営。 BC付近の氷河湖は5月末まで凍っているという。

広大な台地には私共の他にトレッカーはおらず、とても寒くはあったが静寂に包まれた快適なキャンプであった。

そして夜半、月もなく全くの漆黒の闇の中、満天の無数の大きく煌ける星々、まさに 星降る漆黒の天空、その美しさに感動を覚え た。

古代の人もこの星空を見て未来への希望 と平和を祈願し星座を描いたのだろうか。 永遠の時間に思いを馳せる。

外気温は-20℃前後と冷え込んでいた。

ハイキャンプの氷河湖



コンマ・ラ(峠)への登り



コンマ・ラ(峠)



コンマ・ラ峠よりロブチェを望む

トレッキング 11 日目

ハイキャンプ/Hight Camp/5200m 〜コンマ・ラ(峠)/Kongma La /5535m〜ロブチェ/Lovuche 4930m

歩行時間 7.5 時間

ハイキャンプのテントサイトから 氷河期の間をぬって丘陵の平らな道を進む。次第に急な登りとなり、ガレ場で歩き 難いところもあったが峠までのトレース は比較的明瞭であった。

エベレストは見えない。峠から眼下に広がるクーンブ氷河(標高差 600m 下る)を目指してコンマ・ラの尾根を右手から巻くようにして、不安定なゴツゴツとした岩肌と氷結した巨大雪渓の淵を恐る恐る下る。

3 段ほどのエンドモレーンを越えガレ場の岩だらけの道を下ると、クーンブ氷河のアブレーション・バレーに着いた。

今日のトレッキングは緊張の連続、 最難所であったと言える。クーンブ氷河を 上流に向かって進むとロブチェである。

ここまで到達すると、冠雪したプモ・リの見事な三角錐の美しい岩峰が正面にある。プモ・リから落ち込んでくる雪稜の雪が消えて黒褐色の岩肌に変わった辺りがカラパタールだ。

トレッキングもいよいよ終盤である。

ゴラクシェプへの登り



カラパタールへ



カラパタール登頂



エベレスト頂上(中央)サウスコル(右)

トレッキング 12 日目

ロブチェ/Lovuche4930m〜ゴラ クシェプ/Gorak Shep/5100m〜 カラパタール登頂/Kala Pattar/ 5550m

歩行時間 6.5 時間

クーンブ氷河の右岸を上流に向かう。 正面にはプモ・リ(Pumo Li/7161m) が近づいてくる。チャングリ氷河の末端 gg の高度差 150m を登り、対岸のモレー ン(氷河が押し出した岩石の堆積物)を 越えるとロッジのあるゴラクシェプの氷河 湖に着いた。歩行時間 3 時間であった。

空気が薄い分足が重く一歩進むごとに深呼吸を繰り返す。それでも2時間余りで頂上に着いた。矢張り風は強く、そして肌を刺す冷たさ痛さ。

ここはエベレスト山頂を見渡せるクーン ブ山群一番の展望台である。エベレストの 頂上、最終アタックキャンプ設置場所とな るサウスコル(8000m)が眼前に広がる。

ヌプツェ、ローツェの山塊をはじめ、 エベレスト街道に歩を進めながら毎日眺め てきた美しい峰々が一望である。そして岩 石に覆われているものの氷雪が剥き出しの 荒々しいクーンブ氷河が眼下に。

苦しみながらも登頂を成し遂げた達成感 とこの素晴らしいヒマラヤ山群の眺望が相 まって、これぞトレッキングの醍醐味と言 える。



エベレスト BC への登り



エベレスト BC



エベレスト BC



慰霊碑

トレッキング 13 日目

ゴラクシェプ/Gorak Shep/ 5100m~エベレスト BC/Everest BC/5364m

歩行時間 5 時間

今日はエベレスト登山隊の基地となる キャンプ地。BC を往復する。 ゴラクシェプからクーンブ氷河右岸のサイド モレーンに延びる比較的緩やかな道を進む。 ネパールから挑戦するエベレスト登山隊はす べてこのルートを通る。

約3時間でルンダを纏った大きなケルン (慰霊塔)が建立されているBC付近に到着 した。

遠征隊のテントサイトはさらに 1 時間 ほど先にある。この時期はまだプレシー ズンであり、BC に設営されていたテント は 1 チームのみであった。

BC の往復では多くのトレッカーに出会った。ドイツ、フランス、北欧の方々が大半であった。エベレスト BC はトレッカーにも、まさに聖地、パワースポットと言える。

氷河が剥き出しになり、セラックの青白く 光る底の見えない深さに、背筋の凍るような 恐怖心を感じた。

トゥクラの慰霊碑群



ペリチェを望む



タウツェ(6496m)



夕暮れのペリチェ谷

トレッキング 14 日目

ゴラクシェプ/Gorak Shep/ 5100m~トゥクラ/Tukla/ 4620m~ペリチェ/Pheriche /Pheriche/4262m

歩行時間 7 時間

いよいよトレッキングも最終盤。 ゴラクシェプからロブチェまでは往路を引き 返す。ロブチェから支流を左岸にわたり無数 の遭難碑が林立するトゥクラに下る。

トゥクラはクーンブ氷河末端に位置する。 エベレストは見える場所ではないこの地にど うして慰霊碑が数多く建てられているのだろ うか。

更に下るとディンボチェからの道が合流、 傾斜の緩い下りを進むと安定感のある優美 な U 字型の広い谷に出る。

緩やかに幾筋かの水の流れが蛇行している。 氷河期に形成された山合の原風景とも言え るペリチェの谷底を、小さな河の流れに沿っ て最終宿泊地となるペリチェの集落に向か って黙々と歩く。

右手(西)にはチョラツェ、タウツェ、左手(東)にはアマ・ダブラムやカンテガ、タムセルク、などなど、ヒマラヤクーンブ山群の過酷な大自然の中にあってなお雄壮な美しい峰々がトレッキングのフィナーレを飾ってくれる。

有難いことと万感胸に迫る思いであった。

ペリチェ谷

カンテガ(左)、タムセルク



お別れパーティー

トレッキング 15 日目

ペリチェ/Pheriche/4262m 散策

今日は朝日に輝くタムセルクなど眺めなが ら過ごした。

ペリチェ集落にある Himalayan Rescue Association(HRA)の救護施(高山病等)の見学に出掛けたが、まだプレシーズンということで閉鎖されていた。

現在はアメリカ人医師がシーズン中のみ2人態勢の交代制で勤務しているという。

夜はガイド、二人のポーターとささやかに 感謝とお別れの夕食を共にした。



飛来するヘリコプター

SN-ALD:

迎えのヘリコプター

トレッキング 16 日目

帰路 カトマンズへ

予想と違い?定刻通りヘリコプターがルク ラ方面からペリチェのヘリサイトに到着した。

14 日間かけて楽しくもあり辛くもあり歩いて歩いてトレッキングしてきた行程を、僅か1時間ばかりのフライトでカトマンズに舞い戻った。一瞬にしてトレッキングは終わってしまった。夢から覚めるが如く。



ガイドとポーター (ヘリサイトにて)



トレッキング中の食事

プレシーズンの為この食事の繰り返しだった





